



TOYO
ENGINEERING

2022年3月期本決算 経営方針

2022年5月12日
東洋エンジニアリング株式会社
取締役社長 永松 治夫



1. 経営概況
2. 中期経営計画(2021～2025) 進捗状況

2022年3月期の業績

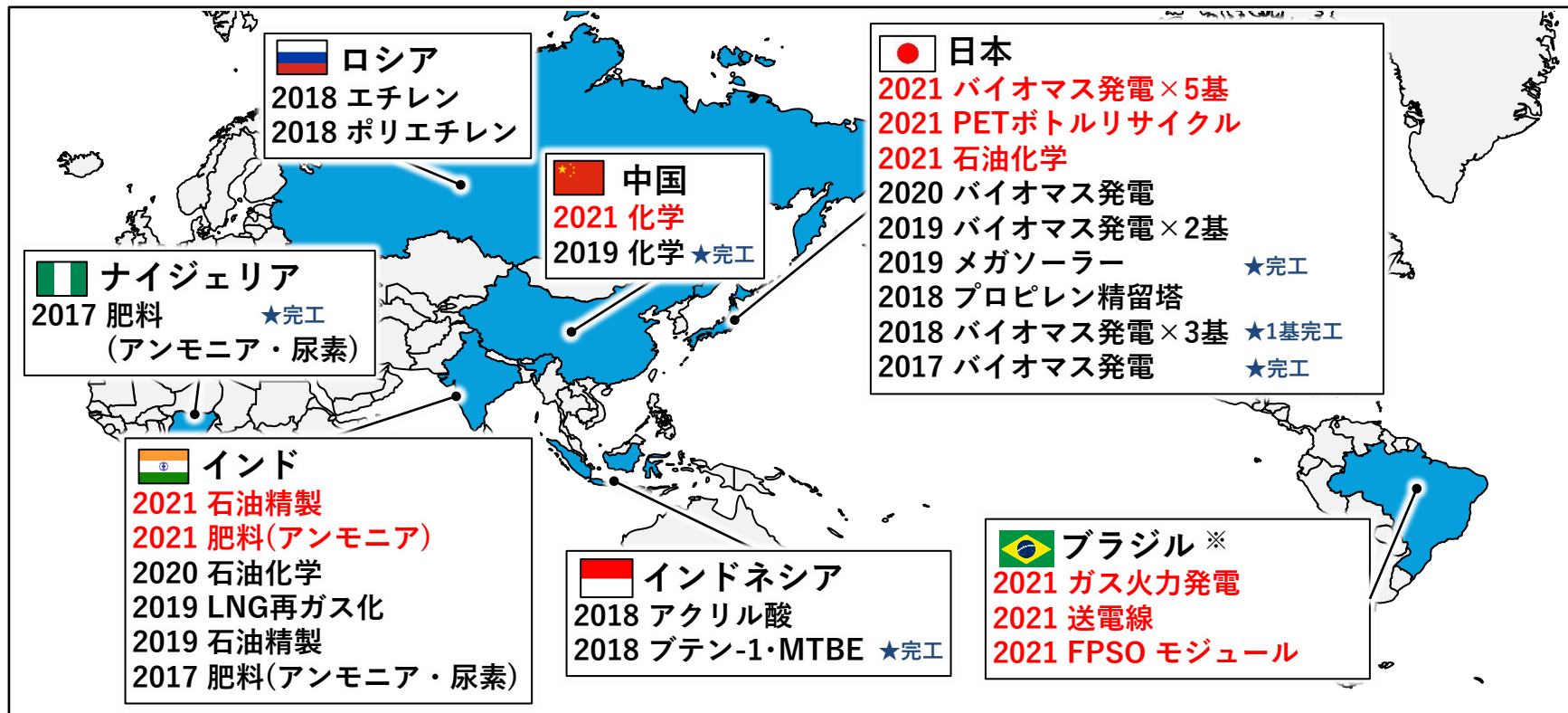
営業利益29億円、当期純利益16億円

単位：億円	期首見込(A)	期末実績(B)	差異(B-A)
売上高	2,400	2,029	△371
売上総利益	230	208	△22
売上総利益率	9.6%	10.3%	+0.7pt
販管費	205	178	+27
営業利益	25	29	+4
営業外損益	0	1	+1
経常利益	25	31	+6
親会社株主帰属当期純利益	15	16	+1
受注高	2,800	2,744	△56
持分法を含む受注高	N/A※	2,904	N/A
配当	—	—	—

※ 期首の時点では持分法適用会社を含む受注高見込は未発表

主要プロジェクト一覧

日本とインドで多数の案件実施中。ブラジルのプロジェクトを新規受注



外的要因によるプロジェクトへの影響



ロシア制裁による影響

- ◆ エチレン／ポリエチレンプロジェクト進捗率(2022年3月末時点)
エチレン：87%、ポリエチレン：79%
- ◆ 調達に一部遅延が発生
- ◆ 工事は客先所掌(継続中)



上海ロックダウンによる影響

- ◆ 設計、調達業務はリモートで対応
- ◆ 上海の工事案件は無し。上海以外の中国内案件への影響は限定的
- ◆ 上海港からの海外向け資機材出荷が遅延するケースが発生

事業環境と受注目標

2023年3月期受注目標：3,000億円（持分法適用会社分500億円を含む）

	事業環境	今期主要分野
既存事業領域	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人口増加、GDP成長に伴い、化学品、肥料、エネルギー、電力分野の需要継続 ウクライナ危機が、世界のエネルギーバランスに影響 トランジションエネルギーやエネルギー安全保障としての石油/ガス/FPSO案件は、国営会社を中心にインド、ブラジルなどで需要継続 	<ul style="list-style-type: none"> 石油化学/化学：日本、中国、韓国、東南アジア 肥料：アフリカ 石油/ガス/FPSO：インド、インドネシア、中南米 発電（バイオマス/地熱/ガス火力）： 日本、インドネシア、ブラジル
新規事業領域	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素化に伴い、カーボンニュートラル案件の投資に向けた検討が加速 水素/アンモニア（ブルー/グリーン）は北米・中東を中心に引き合い多数 	<ul style="list-style-type: none"> 水素/アンモニア（ブルー・グリーン）VC^{*1}構築 CO₂資源化/CCS 海洋鉱物資源 先進医薬品 顧客総合支援サービス： PMC^{*2}、HERO^{*3}、DX-PLANT^{®*4}

*1 Value Chain *2 Project Management Contract *3 プラント省エネルギーサービス *4 プラント運営支援サービス

2023年3月期の重点施策

TOYOの拠点がある成長市場に注力



インド

- 豊富なローカル市場での受注強化
石油精製、LNGガス化設備、石油化学、高機能化学品など
- 政府のグリーン戦略に基づいたカーボンニュートラル関連プロジェクト
CO₂資源化、バイオエタノール、グリーン水素/アンモニア/尿素など



中国

- 引き続き堅調な投資案件の受注強化
欧州・日本の化学会社の投資案件受注



ブラジル

- 豊富なローカル市場での受注強化
ガス・バリューチェーン案件（FPSO、火力発電、送電線等）、石油精製など
- リスク管理とガバナンスを強化
キーメンバーの増強（経営・プロジェクト・設計）

2023年3月期の重点施策

グループオペレーションの進化 ～ Toyo-India

Toyo-IndiaをTOYO全体のEPCオペレーションの中核へ

- グローバルプロジェクト*のエンジニアリングセンター、工事計画センター機能を担う
- Toyo-Japanと共にDX開発・運用

*グローバルプロジェクト担当分野

- アンモニア
- 尿素
- エチレン
- FPSO

カーボンニュートラル事業推進

- 燃料アンモニア・SAF等戦略的に推進する為、カーボンニュートラル事業推進本部を新設
- EPC案件受注のみならず、バリューチェーン構築の参画へ

2023年3月期の重点施策

日揮ホールディングス株式会社とのアライアンスによる燃料アンモニア分野の推進

対象

- 燃料アンモニア製造プラントおよびアンモニア受入基地
- 構想段階（FS、FEEDを含む）からEPCプロジェクトの受注・遂行まで

ねらい

- TOYOのアンモニアプラント実績・技術的知見と日揮の中東・豪州など燃料アンモニア建設候補地での豊富なプラント建設実績という強みを組み合わせて、本分野での主導的な立場を確立



2023年3月期の業績見通し

営業利益20億円、当期純利益15億円の見込み

単位：億円	22/3期(A)	23/3期(B)	差異(B - A)
売上高	2,029	2,100	+71
売上総利益	208	215	+7
売上総利益率	10.3%	10.2%	△0.1pt
販管費	178	195	△17
営業利益	29	20	△9
営業外損益	1	5	+4
経常利益	31	25	△6
親会社株主帰属当期純利益	16	15	△1
受注高	2,744	2,500	△244
持分法を含む受注高	2,904	3,000	+96

※2023年3月期の前提為替レート = 130円/USドル

配当：無配予定



1. 経営概況
2. 中期経営計画(2021～2025) 進捗状況

KGIとKPI

KGI(Key Goal Indicator)

目標	2022年 3月期実績
連結当期純利益 ● 23～25年度平均 <u>50億円以上</u> ● 2030年度 ⇒ <u>100億円</u>	16億円
連結売上高 ● 売上規模より利益を重視 ● 売上高の目安は <u>3,000億円</u>	2,029億円
ROE ● 2025年度 ⇒ <u>10%以上</u> ● 以降 <u>安定的に10%以上</u>	3.8%
配当 ● 中計期間内での <u>復配</u> を目指す	—

KPI(Key Performance Indicator)

目標	2022年 3月期実績
非EPC*1粗利 構成比 ● 2025年度： <u>25%以上</u> ● 2030年度： <u>50%</u>	39%
新規事業領域 粗利構成比 ● 2025年度： <u>25%以上</u> ● 2030年度： <u>50%</u>	18%
主要拠点 粗利構成比 ● 2025年度： <u>45%以上</u> *2 ● 2030年度： <u>50%</u>	57%
従業員満足度 ● 前年度より向上	5段階評価で3.63 (前回3.37より向上)
従業員数 ● Toyo-J： 新技術・事業開拓 人財を倍増 ● 拠点各社：需要に応じて 増減	現状約100名 (微増) グループ総数 5,500名規模維持

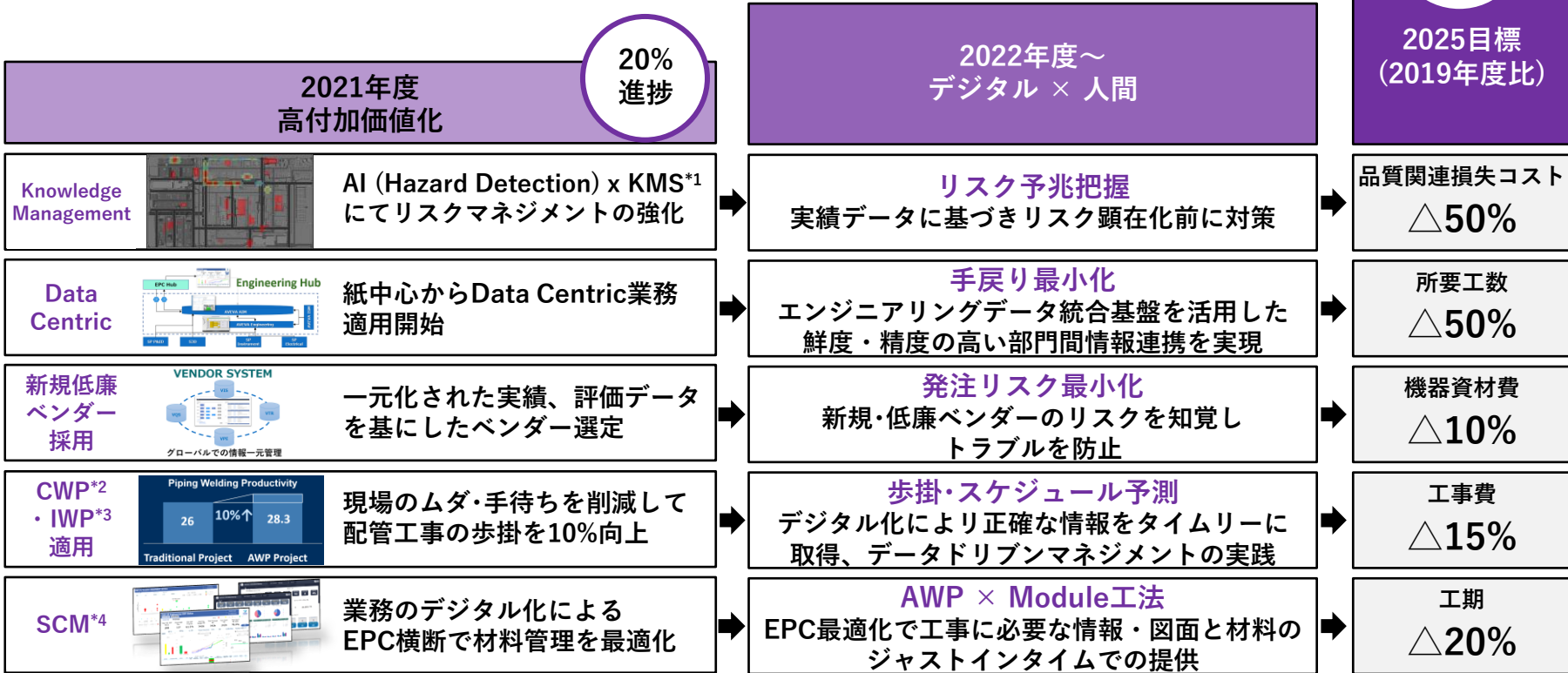
*1 非EPC = EPC/EP Lump-Sum案件以外

*2 TSPI(ブラジル) は持分法適用会社のため含まない

DXoT

効果刈り取りを開始、生産性6倍目標に対して約20%の進捗

生産性
6倍



*1 Knowledge Management System *2 Construction Work Package *3 Installation Work Package *4 Supply Chain Management

新規事業領域の取組

今後2030年を目途に順次収益化を目指す

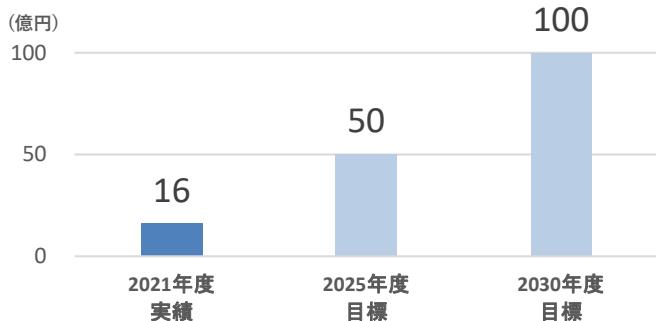
分野	取組状況
循環型・ 低環境負荷	<ul style="list-style-type: none"> • ごみ由来エタノール原料のエチレン試験製造設備：2022年度完工。商業規模の受注を目指す • PETボトルリサイクル：2023年度完工予定 • 廃プラスチックの油化：商業化規模への技術開発に着手。2025年までの商業化を目指す • エチレン分解炉の電化：経済性評価、要素技術の評価・検証開始 • 人工光合成によるCO₂フリー水素製造：技術検証実施中 • レドックスフロー電池：2025年頃の商業化を目指す
CO ₂ 利活用/ 省エネ	<ul style="list-style-type: none"> • SAF：木質バイオマス原料、CO₂原料の2件に取組中。詳細設計フェーズへ • g-Methanol：インド向けパイロット設備設計完了。2025年までに実証設備受注目標 • エチレン分解炉のアンモニア燃焼：2030年の商業規模実証炉へ向け開発が本格的に始動 • HERO：国内外顧客から受注 • DX-PLANT®：尿素に加えエチレンプラント向けにサービス契約開始
次世代エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> • 燃料アンモニア：北米、南米、豪州、東南アジア、インド等で、FS・FEEDの仕込中
資源・エネルギー 安全保障	<ul style="list-style-type: none"> • コバルトリッチクラスト：継続実施中 • レアアース泥：継続実施中
Quality of Life	<ul style="list-style-type: none"> • 高機能化学品：半導体関連プラント、熱可塑性エンジニアリングプラスチックプラント受注 • 医薬（バイオ医薬、中分子医薬）：バイオ/中分子医薬品、合成原薬連続生産設備受注

マテリアリティとKPI

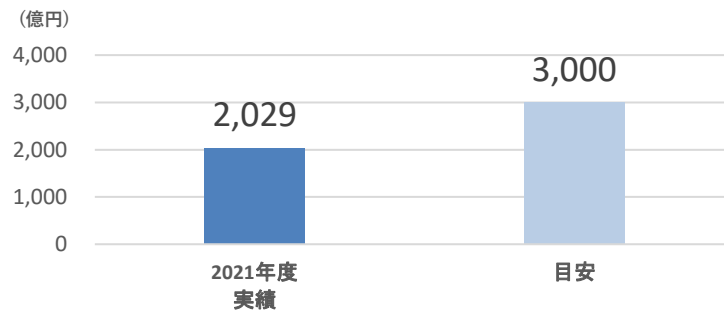
マテリアリティ	対応するSDGs	KPI内容	2022年3月期実績	説明
環境調和型社会を目指す		2021年度以降 累積の受注・事業投資件数	9件	案件例： ペットボトル再生プラント バイオマス発電プラント
人々の暮らしを豊かにする		2021年度以降 累積の受注・事業投資件数 ・食料供給 ・エネルギー供給 ・生活基盤	5件 14件 24件	案件例： 肥料プラント バイオマス発電プラント エチレンプラント・医薬プラント
多彩な人がいきいきと働く		1. 役職員意識・エンゲージメント調査の数値 2. 休業災害度数率（LTIR） = 死亡および休業災害者数 × 100万 ÷ 延実働時間数	3.63 0.05	1. 5段階評価で前回2019年調査の3.37より向上 2. KPIの0.1以下を達成
インテグリティのある組織を作る		1. コンプライアンス重大違反件数 2. 情報セキュリティ重大事故件数	0件 0件	-

(参考資料) KGI

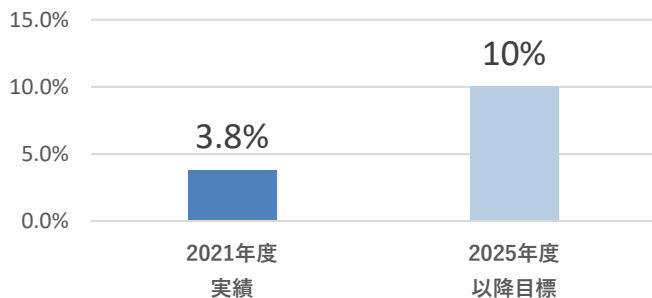
連結当期純利益



連結売上高



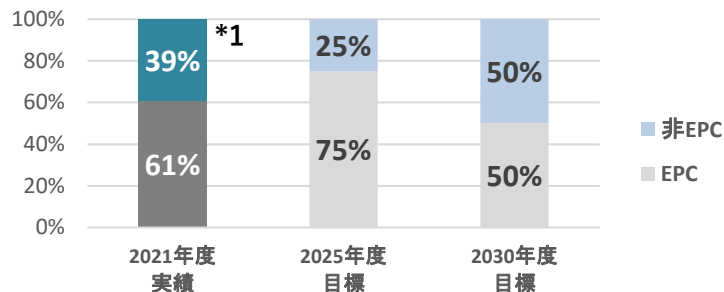
ROE



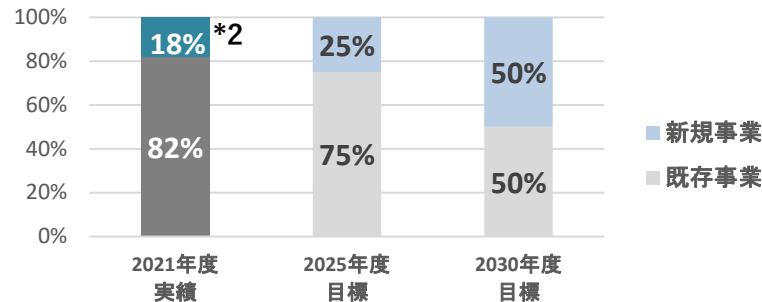
- **連結当期純利益**
期首見込みを若干上回る16億円
- **連結売上高**
売上は期首見込みを下回る2,029億円
- **ROE**
2025年度目標に向け利益レベルを向上させていく

(参考資料) KPI

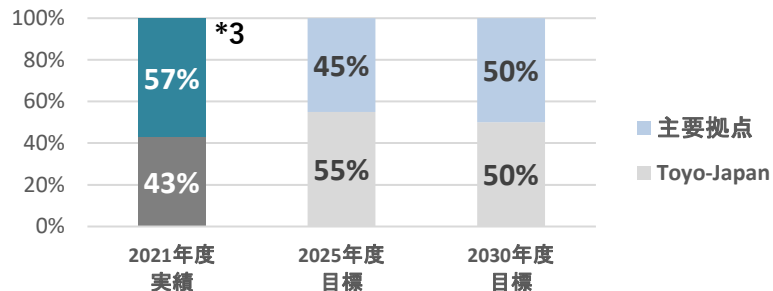
非EPC粗利構成比 非EPC=EPC/EP Lump-Sum案件以外



新規事業粗利構成比



主要拠点粗利構成比



*1：主な非EPC案件：石油化学FEED（中国）
保全業務（日本）

*2：主な新規事業案件：高機能化学品（韓国・中国）
メタンハイドレート（アラスカ）

*3：主な拠点案件：
 Toyo-India（石油・ガス）
 TPS（保全・医薬）
 Toyo-China（半導体関連）
 Toyo-Korea（半導体関連）



東洋エンジニアリング株式会社

URL <https://www.toyo-eng.com>

【お問い合わせ】

〒275-0024 千葉県習志野市茜浜 2-8-1

広報・IR部長 白石 義文

電話 047-454-1681

E-mail ir@toyo-eng.com

本資料に記載されている見通しや業績予想などのうち、歴史的事実でないものは現在入手可能な情報から得た当社の経営陣の判断にもとづき作成しております。実際の業績は、当社の事業領域を取り巻く国内および海外の経済・金融情勢等、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは異なる結果となりうる事をご承知おきください。